

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価結果

| 達成度（評価） | |
|---------|-------------|
| A | 十分達成できている |
| B | おおむね達成できている |
| C | やや不十分である |
| D | 不十分である |

| | |
|---------------|---|
| 学校名 | 唐津市立玉島小学校 |
| 1 前年度 評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> 児童が目的意識もちながら学び合うことができるように、学習課題の設定を工夫したことで、達成感をもたせることができた。また、目的のある話し合いの場を設定したことで、考えを広く深めあることにつながった。今後は、児童が自身の強みを自覚して、それを生かせるような学習活動の在り方を充実させていきたい。 玉島っ子アンケートを定期的に行い、それをもとに児童と面談を行うことで、困り感や悩みに寄り添い対応することができた。また、学級アンケートやQUTテストで客観的に学級集団に対する満足度や生活意欲度を見るなどで現状を把握し、教師と共に児童も主体的に学級集団を高めていこうとすることができた。 |

| | |
|----------|--------------------------------------|
| 2 学校教育目標 | “たくましく まごころいっぱい しっかり考え まなびあう” 子どもの育成 |
|----------|--------------------------------------|

| | |
|------------|--|
| 3 本年度の重点目標 | <ul style="list-style-type: none"> ①一人ひとりのよさを引き出し、認めながら自信を育てる「出番・役割・承認」を徹底する ②主体的に学ぶ楽しさや学びを表現するよさを実感できるように授業を工夫する ③他の命を大切に安全教育・防災教育を充実させる ④ふるさと玉島を大切に心を育てる「玉島学」を推進する |
|------------|--|

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

| 評価項目 | 重点取組 | | 具体的取組 | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|--------------------|--|--|--|---|---|--|---|---|
| | 取組内容 | 成果指標（数値目標） | | 達成度（評価） | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| | (1)共通評価項目 | | | | | | | |
| ●学力の向上 | ○児童が目的意識もちながら学び合い、考えを深めたり広げたりする授業を行う。自分の学びを自覚できる場を設定する。 | ○学習に関するアンケート「自らの言語表現を意識して学習に取り組んでいると思う。」、学校評価の質問事項「授業を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。」に肯定的な回答した児童80%以上 | ・「唐津の学びスタイル」の実践を図り、自己表現力を高める授業改善を行う。チェックシートを活用して学期毎に振り返る機会を設定する。 ・児童の振り返りの記述やアンケートを基に、指導や支援の方法を探り実践する。 | A | ・学習に関するアンケート「自らの言語表現を意識して学習に取り組んでいると思う。」においては90%、学校評価の「授業を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。」においては86%が肯定的な回答をした。 | A | ・タブレットを効果的に使って、工夫された学習がなされている。 ・学校評価アンケートの結果から読書指導の必要性を感じるので、学校と家庭が連携をして取組を進めてほしい。 | 学力向上C 研究主任 各学年担任 |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○自問ノートや道徳ノート、人権集会後の振り返りの記述において、豊かな心を身に付けたことが分かる内容を記述した児童80%以上 | ・自問ノートや道徳ノートの児童の記述に価値を見出しコメントを書く。 ・ここに集会(人権集会)を年4回実施する。 ・縦割り活動に取り組み、異学年との交流を通して、協力、助け合いができる機会を増やす。 | A | ・自問ノートや道徳ノート、人権集会後の振り返りの記述において、ねらいとした価値が身に付けたことが分かる内容を記述した児童は82%以上であった。 ・自問ノートの振り返りにおいて、三つの玉みがきげできた回答した児童は80%であった。 ・縦割り活動においては、上級生が下級生をリードする形で活動をしたことで、リーダー性や責任感を高めることができた。 | A | ・様々な学校行事で上級生が下級生をリードできていた。 | 道徳教育推進リーダー 特別活動部 人権・同和教育 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上 | ・玉島っ子アンケートを2か月に1回実施し、児童の生活の問題点を把握、改善する。把握したことや児童の様子などから、毎月1回程度の生活打ち合わせや連絡会等で気になることを共通理解をして話し合うようにする。 | A | ・学校評価アンケートでのいじめ防止等について組織的対応ができている、いじめを生まないための集団づくりに取り組んでいると回答した教員は100%であった。 ・生活打ち合わせを定期的を実施し、職員連絡会において児童の生活の様子を全職員で共有し、その後の指導に生かすことができた。 ・玉島っ子アンケートでは、アンケートを取った後、担任による個人面談を行い、児童に寄り添った指導を継続的に行うことができた。 | A | ・定期的なアンケートで児童の困り感に寄り添い対応することは、大事なことなので継続してほしい。 | 生徒指導部 教育相談 |
| | ●◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上 | ・授業だけでなく、教育活動全体で自己肯定感を育む取り組みの実践 ・児童の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施 ・各種体験活動で、児童に活動の見通しをもたせ、学びの振り返りを行うことで自己の成長に気づき取り組みを仕組む。 | A | ・児童へのアンケートでの「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」に肯定的な回答した児童は、92%であった。また、「目の前の目標などに向かってやり遂げようとしている」に肯定的な回答をした児童は92%であった。 ・各教科や領域において体験活動を取り入れ、その後振り返りを仕組むことで、互いに褒め合う機会を増やすことができた。そのことを通じて、自己肯定感を高めることや友達の良いところを理解することができた。 | A | ・様々な取組の成果が出たためのアンケート結果だと思ふ。今後も取組を継続してほしい。 | キャリア教育 各学年担任 |
| ●健康・体づくり | ●「安全に関する資質・能力の育成」 | ●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする | ・事例研修などを適宜取り入れ、自分事意識や危機意識を高める。 ・安全教育は、地域の実情に合わせて行い、体験の学びと振り返りを大切にし、自ら命を守るようとする意識を高める。 ・複数の目で安全点検を行い、未然防止に努める。 | A | ・交通安全教室や全ての避難訓練について、より実効性のあるものになるよう、自分事として児童が捉えることができるように職員で見直しを行った。 ・保護者や地域の方々との協力もあり、1年間、児童の交通事故は0(ゼロ)であった。また、校内での大きな事故もなかった。 ・安全点検を定期的に行うことができた。危険箇所や不具合の報告があれば、迅速に対応することができた。 | A | ・保護者や地域の方々協力をしていただけているので、交通事故が0(ゼロ)だったと思う。 ・登下校の様子を見ると、子どもたちはいつも元気で、上級生と下級生の関係もよい。 | 保体部 |
| | ●望ましい生活習慣の形成 | ○家庭で約束したスマートフォン・ゲーム時間の遵守と「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付いた児童80%以上 | ・授業において睡眠やスマートフォン・ゲーム時間を守ることの大切さを伝える。 ・生活アンケートを定期的実施し、規則正しい生活習慣の意識を高める。 | A | ・スマートフォンやゲームの時間については、保護者と連携した指導を行った。機会をとりえて、児童自身の設定した目標を振り返りを行い、継続した指導を行った。ある程度の成果は出たものの、全員が結果がでたということではない。 ・早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いたと自己評価をしている児童は、80%となっており、わずかではあるが上昇した。毎日の朝食喫食の調査では、喫食率が90%を超えていた。 ・学校での生活指導についての保護者の評価が上昇し、家庭における指導のあり方について関心が高まった。 | A | ・スマートフォンやゲームの時間については、家庭での指導が難しい面があると思う。学校と保護者との連携がこれまで以上に必要だと思う。 ・スマートフォンやゲームの使い過ぎによる体への影響を指導する必要があると思う。 | |
| | ○「運動習慣の改善や定着化」 | ○週に3日以上、授業以外で運動や外遊びを行う児童が75%以上 | ・朝や15分休み、昼休みの外遊びを奨励する。 | ・酷暑により夏場の外遊びの制限はあったものの、アンケートでは「週に3日以上外遊びをしている」と答えた児童が75%であった(うち「毎日」は25%)。 ・運動会や持久走記録会、レッツプレイ等の行事への取り組みをきっかけとして、運動の奨励を行った。その結果、意欲をもって運動に向かう児童の姿が多く見られた。 | A | ・運動会や持久走記録会、レッツプレイ等の行事への取り組みをきっかけとして、運動の奨励を行った。その結果、意欲をもって運動に向かう児童の姿が多く見られた。 | A | ・気候との関係で制限される部分はあと思うが、子どもたちの体力づくりにしっかり取り組んでほしい。 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 | ・金曜日に定時退勤日を設定する。 ・その日の退勤時刻を見通した働き方をするよう啓発し、平日18時30分の施錠を目指す。 ・定期的に共有フォルダーや教材を整理し、様式や資料の共有化を図り、効率的に業務を進める。 ・会議のペーパーレス化により業務改善を推進する。 | A | ・定時退勤日の金曜日は、17時00分にはほとんどの職員が退勤できていた。定時退勤日の実施率は、90%以上であった。金曜日以外の日は、18時30分には、完全退勤ができている。 ・職員会議等の資料をペーパーレス化することで業務改善の推進を図ることができた。 | A | ・働き方改革が進んであることは良いことだと思ふので、取組を進めてほしい。 | 教頭 教務 主査 |
| ●特別支援教育の充実 | ○教員の専門性と意識の向上 | ○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上 | ・特別支援に関する研修会を実施する。 ・児童理解研修、校内支援員会を開催し、情報共有を図り、学校全体での支援体制を整える。 | A | ・学校評価アンケートでの特別支援教育に関する専門性や意識が向上したと回答した教員は88%であった。 ・年間を通して、職員連絡会後には気になる子どもについての話し合いを行い、共通理解を図ることができた。 ・玉島っ子アンケートの結果については、全職員で共有し、以後の児童の指導に生かすことができた。 ・ケース会議や支援会議については、機会に応じて開催することができた。 | A | ・これからも一人一人に応じた細やかな取組を続けてほしい。 | 特別支援C 特別支援学級担任 |

| 評価項目 | 重点取組 | | 具体的取組 | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|---------------|------------------------------|--|--|---------|---|---------|--|-------|
| | 取組内容 | 成果指標（数値目標） | | 達成度（評価） | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| | (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | | | | |
| ○開かれた学校づくり | ○保護者・地域との連携 | ○地域人材を活用した「玉島学」、親子体験活動を年間1回以上全クラスで実施 | ・玉島学で、全クラスで地域人材を活用する。 ・全クラスで、親子体験活動を実施する。 ・学校での学びを発信し、保護者・地域の関心を取り込んでいく。 | A | ・全学年が生活科・社会科・総合的な学習の時間において、地域人材を活用することができた。(6年生: 晩白柚の収穫、5年生: 郷土料理づくり、4年生: 福祉体験、3年生: みかんハウス、アスパラガス収穫、1・2年生: 普道び体験等) ・全学年において、親子活動を実施することができた。(1・2年生: 森のクラブ体験、3・4年生: 焼き物教室、5・6年生和菓子づくり) ・着衣泳の指導、持久走の試走の見守り、5・6年生のミシンの指導など多くの地域の方々を活用できた。 ・サークルクラブには4年生以上が参加し、地域の指導者の下、手芸や卓球を楽しむことができた。 | A | ・小さな学校の特色を生かし、玉島地区でしかできないことに取り組んでほしい。 ・これからも地域人材を生かした取組を行ってほしい。 | 教頭・教務 |
| ○小小連携、小中連携の推進 | ○9か年の学びを念頭に置いた、小小連携、小中連携の推進。 | ○浜玉中学校区での体験活動を実施する。(小6と浜玉中1年との体験活動、浜崎小と平原小との合同体験活動を低・中・高で1回以上実施) | ・中学校区で共通目標を設定し、実践を行い、評価・改善していく。 | A | ・中学校区での小中連携ボランティア活動は、予定通り実施することができた。 ・中学校区の小小連携活動は、1年生・4年生・6年生で行うことができた。4年生・6年生では交流授業も行うことができた。 ・平原小学校とは、3年生が社会科見学、5年生は宿泊体験学習を合同で行うことができた。 | A | ・小小連携や小中連携を密にして、大人数の中で活動することに慣れる経験をしてほしい。 | 教務 |

| | |
|----------------|--|
| 5 総合評価・次年度への展望 | <ul style="list-style-type: none"> 各教科や領域において体験活動を取り入れ、その後振り返りを仕組み、互いに褒め合う機会を増やすことができたと、自己肯定感を高めることや友達の良いところを理解することができた。集団の中で、自他の違いを認め、尊重し、よりよい友人関係を築ける児童を育成していきたい。今後も、学び合い・高め合い・支え合い・認め合いができる集団づくりをしていきたい。 学校教育目標の達成のため、地域、家庭と連携を図りながら、教育活動を行ってきたい。特に、地域の方々には、様々な場面で学校教育に関わっていただき、体験から学びを充実させることができた。今後も児童の課題意識に応じた体験学習や郷土の課題解決のための取組を行い、地域と共にある学校、地域の期待に応えられる学校となるよう努めていきたい。次年度も地域のよさを生かした活動を仕組み、地域への愛着や誇りをもつことにつなげ、その学びを発信していきたい。 |
|----------------|--|